

平成19年度第1回学生実験

去る5月22日～23日に、今年度初めての熊谷先生による3回生配当学生実験がありました。昨年は、やぎのルーメン液サンプリングとルーメンプロトゾアのカウンティング、さらにはやぎの採食・反芻行動観察とin vitro発酵試験を丸2日間かけて行ないましたが、今年は、その絶対量を減らしin vitro発酵試験以外を初日に行なった一方で、熊谷先生による講義と研究紹介、さらには簡単なやぎ放牧見学なども行ないました。初日のルーメン液サンプリングはおなか



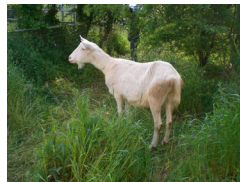
のおかげでとても順調に進み、今年は

昨年よりも女の子の学生が多く、やぎの生体を用いた試験に対して学生がどのような反応を抱くか興味を持って見ていましたが、のほほんとした顔をしたやぎ達のおなかの穴からルーメン液が吸い上げられるのを皆不思議そうに眺めていました。また2日目の放牧観察では、うっそうと茂ったパドックの入り口に入る際、まず「こんなところが北部構内にあったんだ～」と多くの学生が驚き、さらに、人が来たことを感知して、放牧区のとびらの前に駆け寄ってきたドラ



とウラドラを見て、皆笑顔でした。「さすがに京都じゃハイジの風景とは違うね～」と言っている学生も居ましたが、放牧区という限られたスペースであるとは言え、草むらで好き勝手に動き回るやぎの姿は、やはり多くの学生に対して牧歌的な「癒し」に似た感情を与えられたのではないかな？と勝手に思っています。

今回のグループの学生によると、今年は海洋系の研究室への希望者が多いとのこと、動物系はちょっと不人気なようですが、実際にやぎ達に触れ合ったり、平和そうに昼寝するぶた達を眺めたりしたこと(ぶたはウチの子では無いですが、意外な人気でした)、少しでも動物系の研究室にも興味を持ってもらえたらいいなと思っています。(大石)



【後日談】学生実験の感想レポートが帰ってきました。今回参加した3年生の中には、『動物を扱うことに抵抗があったけれど、ヤギを実際に扱ってみて親しみを覚えました』『普段なかなか見られないヤギを扱うことだけでも新鮮で刺激的な実習だった』『ヤギに対する日本人の意識がもう少し変わったらいいと思った』などなど、好感度の高い意見も書かれていたようです。私たちも、3年生の皆さんが、興味を持って畜産資源の実験に参加できるよう、実験補助のお手伝いをしていきたいものですね！



目次:

システム農学会 2
2007年度春季大会

学問に王道はなし 3
～広岡先生の随筆～

畑のその後 3

中東に行ってきました 4
～ヨルダン編～

牧場懇親会 5

山羊を放牧する 5

お知らせ 6

ゴールデンウィーク明けから、ソフトボール大会、学生実験、システム農学会のお手伝いなどなど、5月も盛りだくさんの1ヶ月でした。ソフトボール大会では、すっかり日焼けしてしまいましたが、天気の良い日はお外で遊ぶのが気持ちいいですね♪研究の合間を縫って日光を浴びましょう。山羊たちもお外に出るのは大好きです。ただし暑い日には水分補給を心がけ、夕方には蚊も多くなっていますので対策を忘れずに。

祝優勝！！～はくび会ソフトボール大会～

平成19年度はくび会ソフトボール大会が、5月15日(火)の畜産資源VS生殖生物の試合を皮切りに始まりまし



た。今年も畜産がはくび会ソフトボールの運営担当ということで、事前の農学部グラウンド確保から日程調整、打ち上げまでを企画。今年は充分な練習日程を組んで、やる気満々で臨みました。

また期間中、試合結果とは別に、椎野君と西尾君が畜産戦の試合速報を臨場感たっぷりに書いてくれたので、はくび会メーリングリストに送信しました。この速報がなかなかの反響で、他の研究室の先生方からもお褒めの言葉を頂きました。今大会功労賞の今井先生(生殖)からは「来年は、全試合の速報出してくれないか」とのご提案まで飛び出して…(^_^;)

さて、肝心の結果ですが…(3ページへ続く)



システム農学会2007年度春季大会 @ 京都大学時計台記念ホール

学生実験が終わったと一息つくこともできぬまま、次の24日～25日にはシステム農学会春季大会がありました。

今回の大会は開催地が京都大学であり、大会実行委員長が広岡先生でした。そのため、生物圏情報学の酒井先生や守屋先生、地球環境学の水野先生とともに、僕も



大会実行委員会のメンバーとして、1ヶ月ほどその準備に奮闘しました。まずは発表申し込み受付から始まり、講演者や発表者、座長さんとの連絡、要旨の受付、要旨集の作成などなど、裏方として様々な業務を行ないました。

まず24日には大会シンポジウムがあり、学会長の秋山先生@岐阜大や大会委員長の広岡先生を初め、畜産資源で博士を取られた荻野さん@畜産草地研究所なども講演されました。本来ならばシンポジウムの講演内容をじっくりと聞くのが普通ですが、今回は会場運営の監督であったため、あまりその余裕が無く、とりあえず無事に一日が終わってくれるといいなと思っていました。今までも何度か運営業務に携わったことはありますが、やはり監督側になると少し余裕がなくなるのだなと自分自身で妙に驚きました。

夜はカンファラで懇親会があり、業務を手伝ってくれた畜産資源のみなさんにはたっぷり飲み食いしてもらいました。さらにその後、次期会長である酒井先生自らが「まだ飲むぞ」ということで、守屋先生とともに、生物圏情報学の



懇親会では食べ盛り！

事務室で2次会を行ないました。メンバーは情報学の先生お2人と熊谷先生の他は、なぜかいつもの畜産資源メンバー(+荻野さん)でした。僕と長命くん、田端くんは次の日の午前中に発表を控えていましたが、酒の弱い僕以外の人にはたらふく飲んで、結局家に帰れるようになったのは1時過ぎでした。最後までつき合わせて、タクシー帰りさせてしまった招待講演者の荻野さん、ごめんなさい。

次の25日は、大雨の中での一般研究発表会でした。朝早くから手伝いのみなさんががんばってもらい、短い準備時間にも関わらず、ばたばたしつつも何とか開始することができました。研究発表会は2会場でありましたが、午前中に早速、3題目の僕から、田端くん、長命くんと3題続けて畜産資源組が発表しました。3題続けて畜産資源のメンバー、さらにはその後広岡先生も発表を行なったので、実質午前中だけで畜産



ちゃんとお仕事しています

資源のメンバーが4題でした。これは、過去にも例が無いのではないかと思います。僕が今まで学会発表したときは、なぜか広岡先生が発表を聞いてくださる以外は他の学生と一緒に発表を行なったことがなかったので、今回は何となく嬉しい学会発表でした。自分の発表が終わるとまたすぐに気持ちは運営業務に戻り、受付、総会、午後の進行と何とか無事進み、最後の片付けが終わったときは、やっとほっとできました。



最後は荻野さんを含めて夕食をとり、荻野さんを京都駅に送って家に帰りました。

まとめとして、まずは優秀発表賞を受賞した田端くん、おめでとう。2日酔いでかなりへろへろ状態でしたが、発表時はしっかり堂々

としており、さすがだなと思いました。内容的にも、農学分野では新しいものなので他の研究者の方々にもどのように評価してもらえるかと思っていましたが、受賞できたということはいい評価をもらえたということだと思うので、僕も共同研究者としてとても嬉しく思いました。次に、2日間を通じて会場運営を手



優秀発表賞を受賞した田端さん

伝ってくれた畜産資源のみなさん、本当にどうもありがとう。懇親会のタダ飯以外バイト代は無く、ほぼボランティア状態にも関わらず、設営から進行、受付と、みなさんが団結してがんばってくれたおかげで全て順調にまわりました。お疲れ様でした。最後に、大会事務局の先生方、中でも、大会委員長として様々な業務があり多忙であるにも関わらず、シンポジウムだけでなく一般発表まで行なってくださった広岡先生、大変お疲れ様でした。次回は秋の岐阜です。みなさん、是非また参加しましょう。

(大石)

お誕生日会

5月21日の夕方、金鳥さんのお誕生日会が行われました。おめでとうございます！今回のお題は『和菓子』ということで、出町ふたばの豆もちと若菜屋の水饅頭でした。お誕生日＝ケーキのイメージですが、たまには和菓子も良いものです。お誕生日会では、京都の和菓子の話から、何故か美味いラーメン屋さん、大阪のたこ焼きとお好み焼き、関西と関東のおでんの話などなど、食べ物トークに花が咲きました。



畑のその後

4月末に作物を植えて以来、畑の手入れをしていなかったのが、皆で雑草の駆除をすることにしました。1ヶ月放置していたせいか、畑には雑草が生い茂っており、作物が埋もれるくらいでした。皆で手分けして手で雑草を抜いていくことにしたのですが、雑草の根は深く土中に張り巡らされ、悪戦苦闘でした…。そんな中、築山君は周りの人の倍以上のスピードで雑草を抜いていきます。手早いなあ、と感心しているのもつかの間、ダイショまで雑草と一緒に抜いてしまいました(金鳥さんに怒られるよ)。そうして、1時間ほどかけて雑草を全部抜いてみたところ、意外と作物の芽が少なかったため、少し心配になりました(あんなに種を植えたのに…)。やはり、除草剤を事前にまいておかなかったのが響いたのでしょうか。有機農法の難しさを実感しました。(記者N)

新連載企画！ 広岡先生の随筆

① 学問に王道はなし

この諺は、ユークリッドがエジプト王に幾何学を簡単に学ぶ方法はないかと聞かれたとき、「幾何学に王道はなし」と答えたという故事に由来するものと言われており、英語ではThere is no royal road to learningと言う。

私は小学校の時、算数が苦手であった。当時、参考書で解き方を学ぶことなど思いもよらず、いつも問題が解けず、最後まで残されることが多かった。また、父に聞いても、父は父で、決して答えを教えてくれず、よく何時間も考えさせられることになった。風呂の中でも寝床の中でも考え、やっと答えを見つけて父に見せると、もっと簡単に解ける方法があることを知り、ショックを受けたことも多かった。

今となってはあまり信じてもらえないが、小学校の時は、私は中学校を卒業して就職することを考えていた。それほど勉強が嫌いであった。頭の回転は遅く、勉強の力が鈍かった。しかも、6歳も下の弟はずばぬけて頭がよく、クイズ番組で回答数を競争しても勝つことよりも負けることの方が多かった。そのようなわけで、小学校の時は、ずっと勉強に劣等感を持っていた。しかしある時、父が、この「学問に王道はなし」と言うこの諺を例に、学問(勉強)を努力なしに手軽に身につける方法はなく、ただ努力の積み重ねでのみで学問を身につけることができると教えてくれた。そのことを聞いて、不思議と気が楽になったことを覚えている。

物理学者の寺田寅彦博士が「科学者とあた

ま」という随筆の中で、科学者は頭がよくなければならないが、同時に頭が悪くなければならぬと述べている。このことは一見矛盾しているように見えるが、学問の本質についているように思える。頭のよい科学者は頭がよいゆえに一直線に解に向けて進み、いち早く答えを得ることができるが、頭の悪い科学者は、その答えにいたるまでに、悩み苦しみ、回り道をするようになる。しかし、その回り道の過程で、より重要な問題と解が隠されている事があり、大発見に結びつくことがある。多くの大発見が、失敗や偶然から得られたものであることを考えれば、この寺田博士の指摘は、ある意味で確かに学問の真理と言える。

私は中学以降、受験勉強の方法を知り、問題の解き方を「覚える」ことで、何とか受験を通過してきた。しかし、研究者となって今思うのだが、受験勉強で身につけた事よりも、小学校の時に悩み苦しみながら問題を解いて身につけた事のほうがずっと役立っているように感じられる。今ではこの「学問に王道はなし」は、私にとって座右の銘のひとつになっている。最近、若い学生諸君を教えていると、確かに知識や学力には個人差があるが、そのような個人差は、こと学問に関しては致命傷にはならず、また頭の悪い事は決してマイナスではなく、むしろ研究者としての重要な資質に違いないと思えるようになった。この諺から、学問の奥深さを知る事ができる。

広岡博之

祝優勝！！～はくび会ソフトボール大会～(続き)

去年の雪辱を果たし、今年は畜産資源の全勝優勝で幕を閉じました(^^)v

天候にも何とか恵まれて、全試合をこなすことができ、大きなケガや事故もなく大会を終了できて、運営側としてはほっとしています。各試合の結果は、畜資11-9生殖、栄養6-10畜資、連合9-16栄養、栄養6-7生殖、畜資12-7連合、連合5-11生殖で、《優勝》畜資(3-0)、《2位》生殖(2-1)、《3位》栄養(1-2)、《4位》連合(0-3)となりました。

続いて6月1日(金)には、大会の打ち上げが行われ、大いに盛り上がりました。50人規模のパーティを優勝賞品含めて4万円の予算でやり

くりしなければならぬので毎年頭を悩ませるところですが、ここでも椎野君が大活躍、おにぎりタイムサービスのお惣菜、パーティ会場でのたこ焼きなどなど工夫を凝らしたメニューでなかなか好評でした。予算もぴったり、62円を残すのみでした。ソフトボール大会の速報と打ち上げの様子は、はくび会のHP

<http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>で閲覧できます。



「中東に行って来ました -ヨルダン編-」

☆イスラエルの観光

イスラエルといえばエルサレム。日本人にとって、その2つの言葉は同義語と感じるほど、存在感の強いエルサレムという街ですが、確かにもの凄い。何が凄いて聖地だらけ。まず、イスラムの聖地「岩のドーム」は預言者ムハンマドが天馬に乗って大天使ガブリエルと共に昇天した場所です。なんと中の岩には、ムハとガブの手形と足型が残っています。その岩ドームのすぐそばには、ユダヤ最大の聖地である「嘆きの壁」があります。ここは、3000年前にソロモン王が作り上げたエルサレム神殿の遺構です。長い間、己の住みかを持たず流浪の民であったユダヤ人の魂がこもった場所であり、毎日黒服にシルクハットというユダヤの正装を纏った人々が一心不乱にお祈りをしています。僕らも「ここで何か嘆いてみるか」と思っ



いたのですが、そのあまりの雰囲気壁に触れるどころか近づくことさえも萎縮してしまいました。場所が場所だけに空気読むのも大切です。また、この近くには、キリストが十字架を背負って歩いた「ピア・ドロローサ」という道があり、その先にはイエスが磔にされたゴルゴダの丘の跡地「聖墳墓教会」があります。ちなみに「ピア・ドロローサ」には、「イエスが2度目に転んだ教会」、「マリアがイエスを見て涙した教会」などなど、13個の小さな教会があります。



ようするにこの街では半径500m以内にイスラム教・ユダヤ教・キリスト教の聖地が全て存在するんです。そりゃ争いごと起きるわ……。宿の情報ノートには、「イスラエルの最大の観光名所はパレスチナ自治区！ここに行かなきゃイスラエルに来た意味がない！！」と挑発的な事が書かれていましたが、分別のある僕は無茶しません。我慢我慢。

☆イスラエル人

イスラエルでは、エジプトやヨルダンほど頻繁に、ぼったくりが無いような気がします。さすがに世界のユダヤ商人、かなりお金に関してはシビアなので値下げ交渉しても中々下がりません。まあ、元々物価はとて高く、コーラ(350ml)で150円、アイスクリームが大体180円ほどかかり、食べ物は日本よりも高い印象がありました。イスラエルでは、街中に軍人の方がたくさんいます。皆大きな銃を担いで、迷彩服です。でも中にはセーター、ジーンズそしてショットガンというカジュアルアーミーも。また、驚かされるのは、女性兵士の多さ。男女問わず徴兵を実施しているために、街で見かける軍人の半分は女性です。それも若く大体20歳前後の若人じゃないでしょうか。ユダヤ人女性はナタリー・ポートマンなど美人で有名。イスラエルボーダーでは女性兵士に「Do you have weapons?」と聞かれドキリとしました。迷彩服+機銃のアーミーファッションはその道の人には堪らないのかも。京都の寺町にはメイドならぬアーミーカフェがあるそうですし、ね？菊原さん。



☆イスラエルの食べ物

この国で、食べたものの中で印象深いのがレバーサンド。おそらく塩だけで煮込んだものすごい量のレバーをレタス、トマトと共に、薄いパンで挟んだものです。道端の屋台で売っていて大体300円ほど。シンプルなのに、これがなかなかの美味。多分羊のレバーだと思います。あまりにプリプリのレバーに生疑惑がありましたが、もうどうでもいいです。この国で怖いものは、もっと色々あるし...



☆総括

皆が危険なイメージを持つイスラエル。でも僕が行って感じたのは、とても穏やかで平和な美しい国。でも、実際に一般人を巻き込むテロが、稀にですが起っているのは間違いなく、簡単に「皆行った方がよい」などとは言えません。でも、僕は行ってみて良かったと断言できますし、この国の神聖かつ緊迫した空気感というのは他では味わえないと思っています。早く皆が心配をすることなく訪れることのできる本当の平和が、この国に来ることを祈ります。

(椎野)

牧場懇親会

5月11日、かねてから京大付属牧場の北川先生が提案されていた牧場での飲み会を行いました。牧場では熊谷先生、椎野君、田端さんなどが研究でお世話になっていることもあり、我が研究室と牧場は結びつきが強く、今回より親交を深めようということで開催されました。飲み会当日は天気がよく、絶好の



BBQ日和になりました！まず、BBQの食材を揃えるために食材班は早めに竹内さんの車で学校を出発することにしたのですが、竹内さんの運転する車が大きかったので、びっくりしました。運転している竹内さんは少し素が出ていて面白かったです（笑）。道中では買い物をしたのですが、ついお酒を飲んでしまい、あとでみんなに責められました…（運転手は飲んでないですよ）。牧場については早速BBQの準備に取り掛かり、牧場恒例の美味しいお肉を頂きました。

お肉の他にも野菜や大量のおにぎりを用意していましたが、ほとんど完食で大盛況でした。また、牧場の方々とのお話も盛り上がり、とても楽しかったです！特に、企業からの研究



で牧場に来ていた北原さんは飲みも激しく、さすが鹿児島県出身だと思われ知らされました。今回の飲み会にはレニンさん夫婦も参加されていて、一家団欒といった感じでした（子供のアンドレ君はとてもかわいいです）。夜の11時を過ぎると飲み会もお開きになり、マージャン大会が始まりました。この研究室の人はよくマージャンをするのですが、今回は普段打たない人や先生も参加されたので新鮮な感じでした。でも、農場の技官さん、教授、准教授に囲まれて打っていた椎野君の



顔は強張っていましたね（笑）。マージャンは明け方まで続き、最終的には超初心者の菊原君が1位になるという大波乱でした（ビギナーズラック恐るべし…）。牧場は学校からかなり離れており、研究で牧場に行く人以外はなかなか牧場に行くことはありませんが、今回の飲み会のようにたまにはみんなで集まる機会があればいいなと感じました。（記者N）

～付属牧場の北川先生からもコメントを頂いていますので、ここでご紹介します～

先日はたくさんの方々に来場して戴き、夜は少し肌寒かったものの、楽しい語らいの交流の宴が開催できましたこと厚く御礼申し上げます。

またいろいろなお事情で来場戴けなかった方々にも京丹波の郷ではいつでも暖かくお迎えの上、その折々の食材とともに、牛舎ならびに圃場での仕事に加わって戴けますので事前にご連絡の上、いつでもおいで下さいませ。



すでにお気づきのみなさんも多いと存じますが、職員のみなさんにご協力戴きながら、当附属牧場を紹介する機会が多くなっています。京大生協発行の教職員情報誌に“京丹波通信”を昨年6月から連載していますし（8月、

1月と3月は休載）、京大広報4月号には“隔地施設紹介”（2371-2372p）で登場させてもらいました。それぞれ下記のアドレスにアクセスして戴きますとご覧戴けますのでお時間のある折で結構ですのでアクセスしてみてください。

京大生協発行“教職員情報”

<http://www.s-coop.net/faculty/>

京大広報

http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_kohou/kohho/622.pdf

山羊を放牧する

最近、国内における山羊の利用法として注目を集めている除草効果。耕作放棄地の雑草駆除や林間の下草刈りを山羊にしてもらおうという試験や研究が盛んに行われています。当研究室でも、放牧試験のプロジェクトが立ち上がるという話が出ています。そこで、山羊を放牧する場合の注意点をご紹介します。山羊を放牧するときが一番の敵になるのが、なんと野犬です。今どき野良犬なんてめったにお目にかかることはないけれど、放牧地が田舎だったりすると、見事に臭いをかぎつけて小さいのから順番にやられてしまいます。相手は、集団で来るので比較的大きな雄でもひとたまりもありません。柵を乗り越えたり、穴を掘って放牧地に入ることも簡単にてきてしまうので、夜中など人の目の届かない時間帯は、特に注意が必要です。次に問題が起こりやすいのは、食べ物の事故です。山羊は元来、いろいろな種類の草を食べてみたい性質があるので、何でも口に入れてみます。放牧中には、毒草やプラスチックの袋、ゴム製品などのゴミをこまめに除去する必要があります。また、食べられる草でも、マメ科が多いと第一胃内の発酵が急に進んで鼓張症を起こすことがあります。飼料の組成が変化することは、第一胃内の恒常性を脅かして下痢を引き起こします。また、土中に含まれるミネラル類の組成変化が、体調に大きく影響するという話も聞いたことがあります。放牧を始めるときには、様子を見ながら徐々に放牧時間を延ばしましょう。



Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、文献紹介と博士課程のお二人の文献総説(予定)です。

6月 7日(木) 田端さん

6月14日(木) 西尾君・竹内さん

6月21日(木) 菊原君・田島君

6月28日(木) レニンさん・児嶋君

なお、時間はいつもどおり10:30~12:00ですが、6月14日から引越しの伴い教室がN-158からE-503へ変更になります。ゼミ係りさんからの連絡にご注意下さい。また、先日のゼミで懸案事項となったプレゼンテーションのスタイルについて、ゼミ係の菊原君より以下の内容の連絡が届いています。

【レジュメを作って発表】(従来の方法)、【PPTを作って発表】(発表練習のときの方法)、【双方(レジュメ、PPT)を作って発表】の3種類がありますが、どの形態で説明されるかは発表者の任意とします。次回よりこの任意形態を適応いたしますので、各自にとって最も効率的な形態を選択してご発表いただきますよう、よろしくお願いいたします。

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、児嶋君(6月30日)です。お誕生日会を6月28日(木)の午後あたりを予定しています。詳細については、追ってご連絡します。



2007年 6月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
5/27	28	29	30	31 レニン・金島 体重測定・予防注射	1	2
3	4	5	6	7 菊原・フランス 体重測定	8	9
10	11	12	13 学生実験・体重測定	14 大石先生・田島 学生実験・予防注射	15	16
17	18	19	20	21 竹内・児嶋 体重測定	22	23
24	25	26	27	28 塚原・椎野 体重測定・予防注射	29	30

編集後記 先日、当研究室に『Goat Bulletinを読んで研究室を見学に来ました』という進学希望の方がいました。嬉しいですね☆外部の方からレスポンス大歓迎です。今月号から広岡先生の連載も始まりまして、ますます充実した内容になりそうです。(ようこ)